



2026年7月

最近の米国ダイレクト・レンディング市場の動向と ファースト・イーグル社の米国ダイレクト・レンディング戦略

First Eagle
Investments

Amundi
Investment Solutions

Trust must be earned

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第350号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料でご紹介する戦略は、投資一任契約に基づき、投資信託または外国籍リミテッド・パートナーシップ等（以下「投資対象ファンド」ということがあります。）を組入れて運用を行うことを前提としています。そのため、本資料には当戦略についての理解を深めて頂くためのご参考資料として、投資対象ファンドに関する情報が含まれています。

最近の米国ダイレクト・レンディング市場の動向

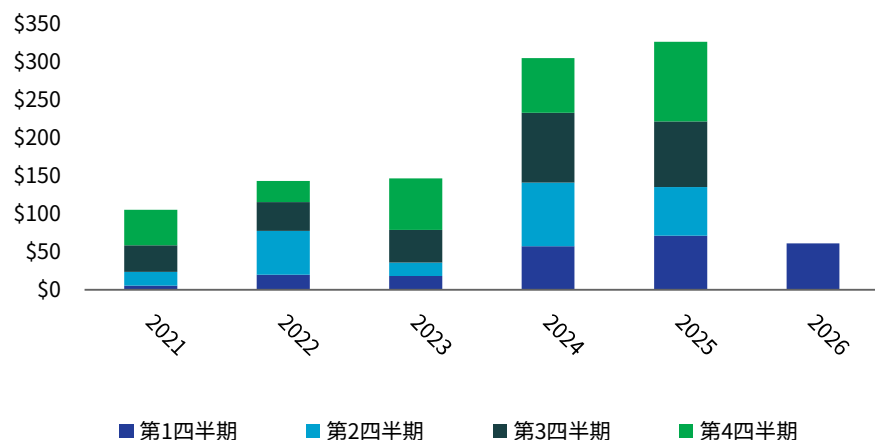
米国ダイレクト・レンディング市場のアップデート

- 今年の米国ダイレクト・レンディング市場は、2026年第1四半期の取引高が前年同期比14%減の610億ドルに留まり、低調なスタートとなりました。
 - そのうち、ローワー・ミドル・マーケット（「LMM」）の取引高は20億ドルで、市場全体の取引高に占める割合としては2024年第3四半期以来の低水準となりました。
 - ダイレクト・レンディング市場全体の取引高は、AIによる市場混乱への懸念やイラン情勢の影響を受けました。
- 一方で、**LMMの価格およびストラクチャーは安定的な状況が継続**しています。
 - **価格（Price）**：スプレッドは+475bps～+525bpsの範囲で推移していますが、第1四半期は、市場平均で513bpsから515bpsへとわずかに拡大しました。
 - **発行時ディスカウント（OID）**：市場の過去の標準的な水準の98から、98.25～98.75へとタイト化しました。
 - **レバレッジ**：過去12ヶ月間において、平均で3.5倍～4.0倍の範囲内に留まっています。
 - **ローン・トゥ・バリュー（LTV）**：平均で35%～40%の範囲で安定しています。
- LMMにおけるレバレッジ1単位あたりの価格は148bpsで安定しており、ミドル・マーケットやアッパー・ミドル・マーケットの取引の112bpsと比べて33bpsのプレミアムを提供しています。
- LMMのクレジット・ファンダメンタルズは引き続き堅調です。企業の売上高およびEBITDAの成長率は鈍化傾向にあるものの、プラス成長を維持しています。
- 米国ダイレクト・レンディング市場のデフォルト率は、依然として過去の平均水準を下回っています。

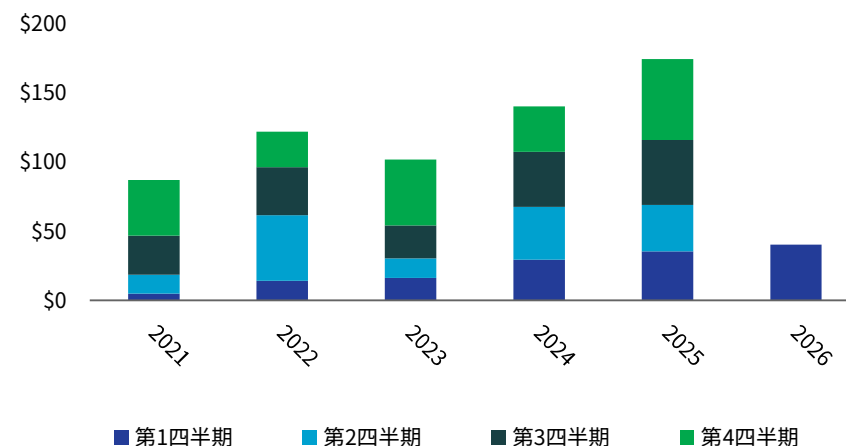
出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。本情報は、2026年3月31日時点におけるFEACのダイレクト・レンディング市場に関する見解に基づいています。他の運用会社による見解は、上記の情報と著しく異なる場合があります。過去の傾向が、いかなるポートフォリオや投資商品の存続期間を通じて継続する保証はありません。本資料に含まれる特定の記述は、過去の経験およびFEACが合理的であると判断する一定の仮定に基づき、本資料作成日時点におけるFEACの見解を反映したものです。実際には誤っている可能性もあります。

米国プライベート・ディールの取引高推移

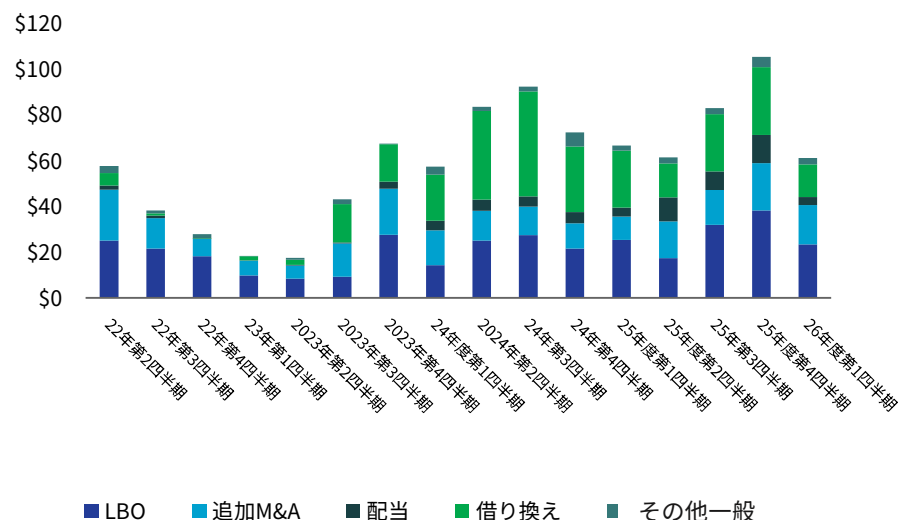
年間取引高 (10億ドル)



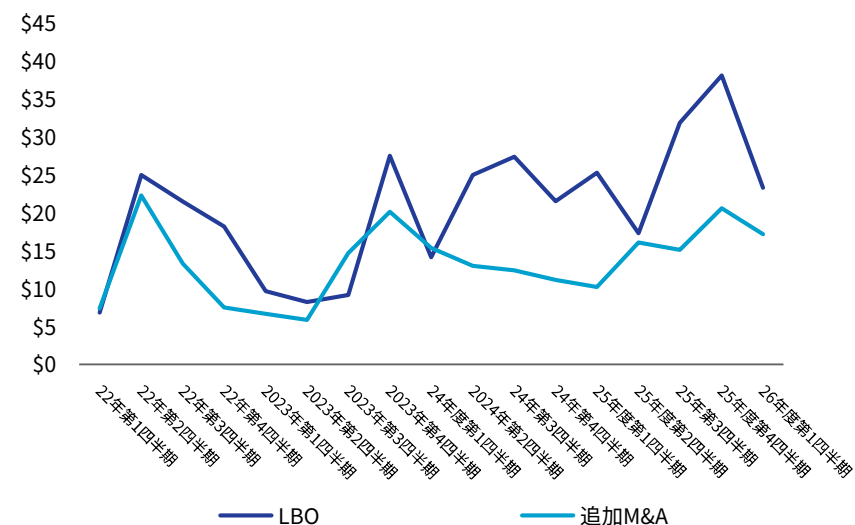
年間 M&A 取引高 (10億ドル)



類型別四半期取引高 (10億ドル)

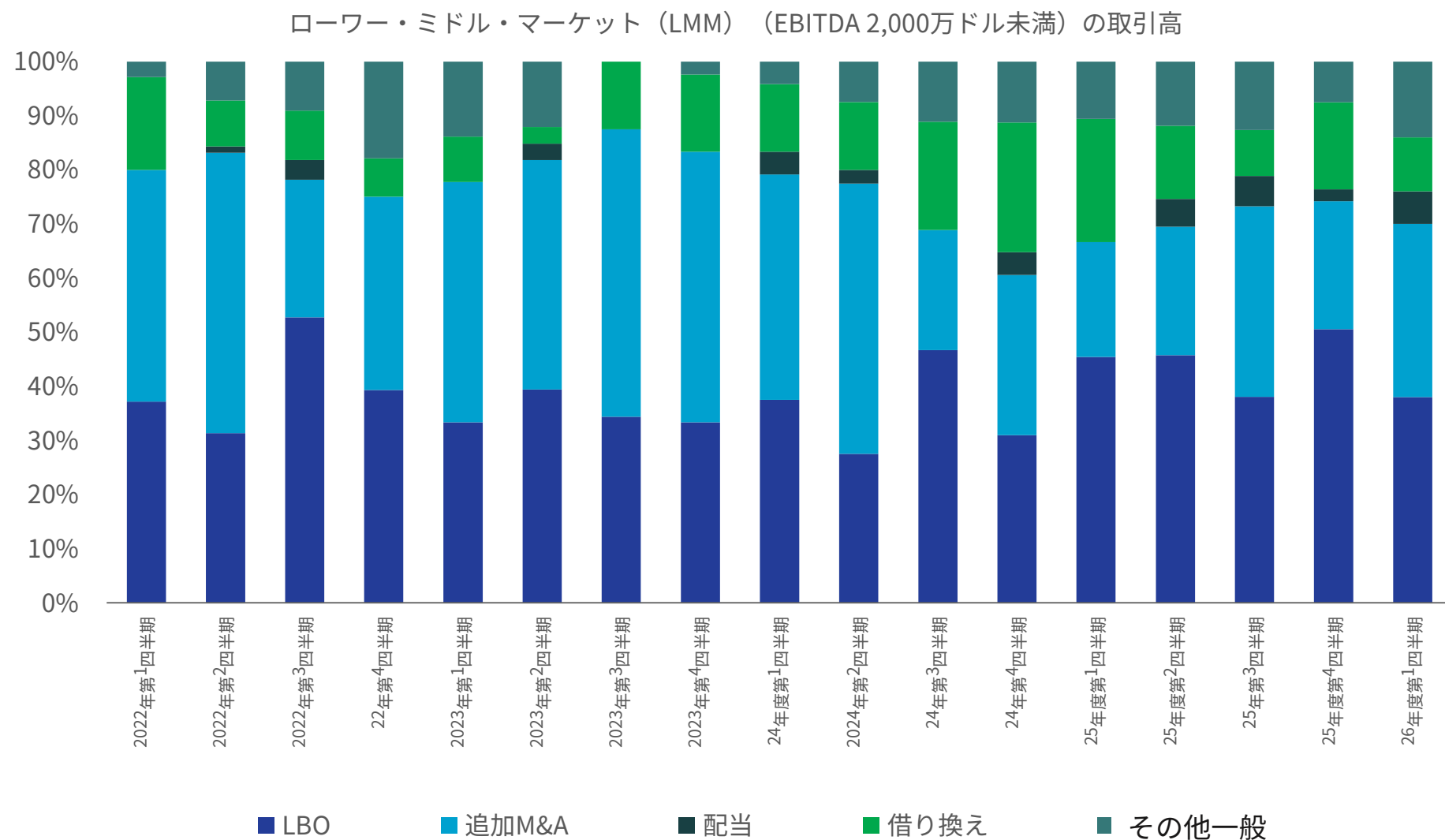


取引が活発化するLBO (四半期毎の推移、10億ドル)



出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。市場動向がファンドの運用期間を通じて持続する保証はありません。

LMMの取引高

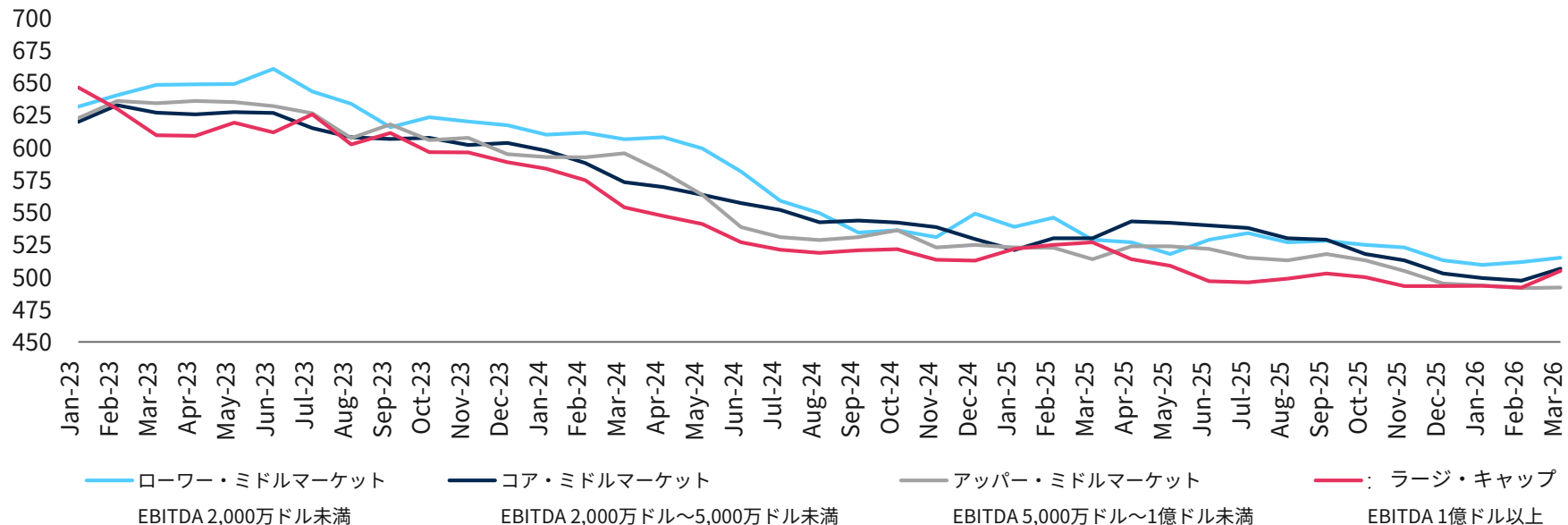


出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。ファンドの運用期間を通じて市場動向が継続することを保証するものではありません。

LMMのスプレッドは過去最低水準に

3月には、ボラティリティの高まりにより、特に市場の上位層において投資家にとって有利な条件が提示されたことから、ほとんどのEBITDAセグメントでスプレッドが拡大しました。

EBITDA別平均スプレッド (bps)

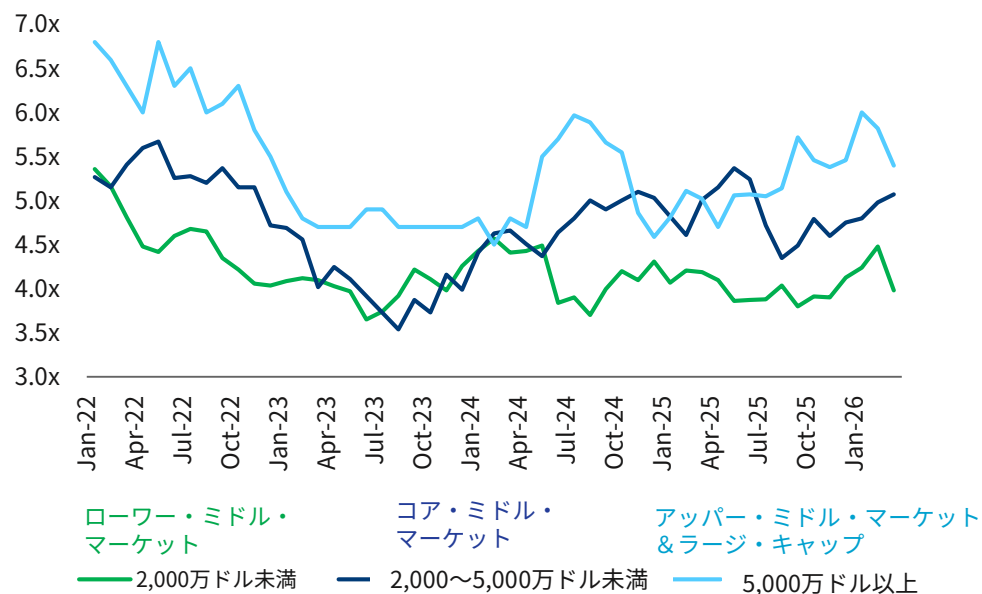


- **ローワー・ミドル・マーケット**：3月のスプレッドは3bps拡大して515bpsとなり、4ヶ月連続で510～515bpsの範囲内での推移となりました。
- **コア・ミドル・マーケット**：3月のスプレッドは10bps拡大して507bpsとなり、11月以来の高い水準を記録しました。
- **アッパー・ミドル・マーケット**：3月のスプレッドは492bpsで横ばいとなり、現在、EBITDA規模別では最もタイトな水準です。
- **ラージ・キャップ**：スプレッドは13bps拡大して505bpsとなり、2025年5月以来の高い水準を記録しました。

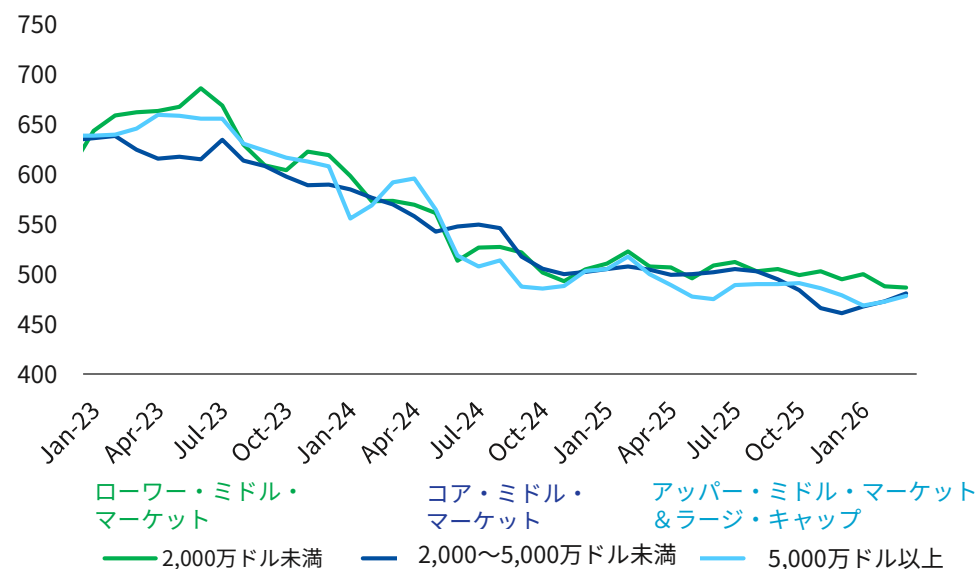
出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。ファンドの運用期間を通じて市場動向が継続する保証はありません。

EBITDAに基づくスプレッドとレバレッジ

発行体規模別のLBO平均トータル・レバレッジ



発行体規模別の平均スプレッド (bps)

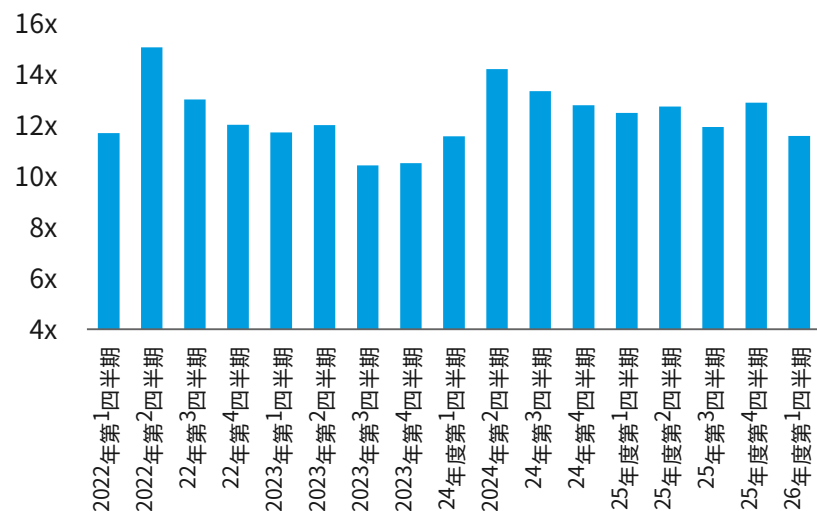


- **ローワー・ミドル・マーケット**：3月のトータル・レバレッジ倍率は0.5ポイント縮小して4.0倍となり、発行体にとって有利な条件が取引の活発化を後押ししていた12月以前の水準に近づきました。3月のスプレッドは1ベースポイント縮小しました。
- **コア・ミドル・マーケット**：3月のトータル・レバレッジは、取引が減少する中、5.1倍に拡大し、2025年6月以来の高い水準を記録しました。12月に記録されたコア・ミドル・マーケットのLBO案件数の方が、2026年第1四半期よりも多くなりました。スプレッドは8bps拡大し、481bpsとなりました。
- **アッパー・ミドル・マーケット & ラージ・キャップ**：3月のトータル・レバレッジは5.4倍となり、2月の5.8倍、および直近のピークとなった1月の6.0倍から低下しました。ただし、3月の水準は、2025年の平均の5.2倍を上回っています。このセグメントのスプレッドは3月に5bps拡大しました。

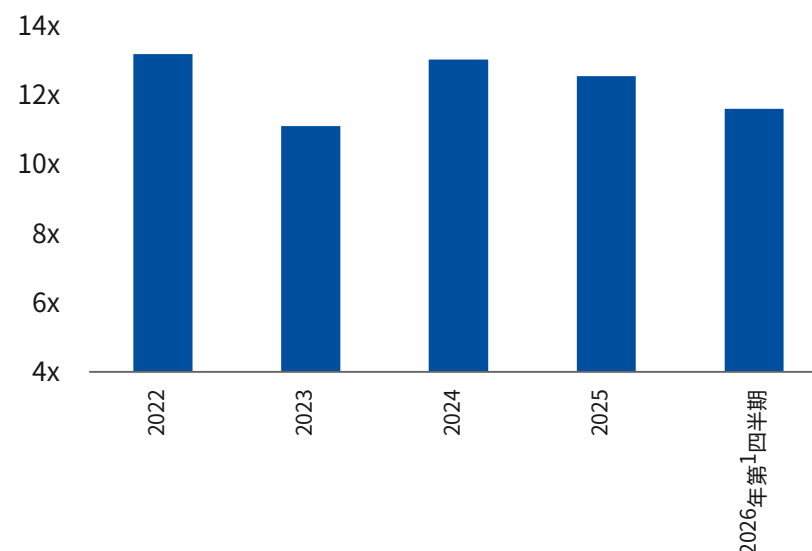
出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。ファンドの運用期間を通じて市場動向が継続することを保証するものではありません。

買収価格倍率

四半期ごとのLBO買収価格倍率



年間のLBO買収価格倍率

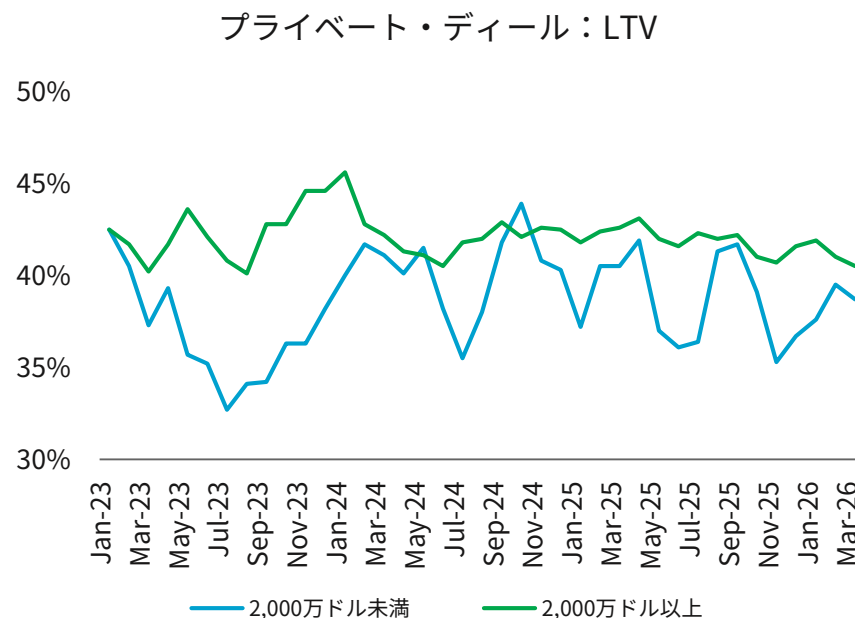
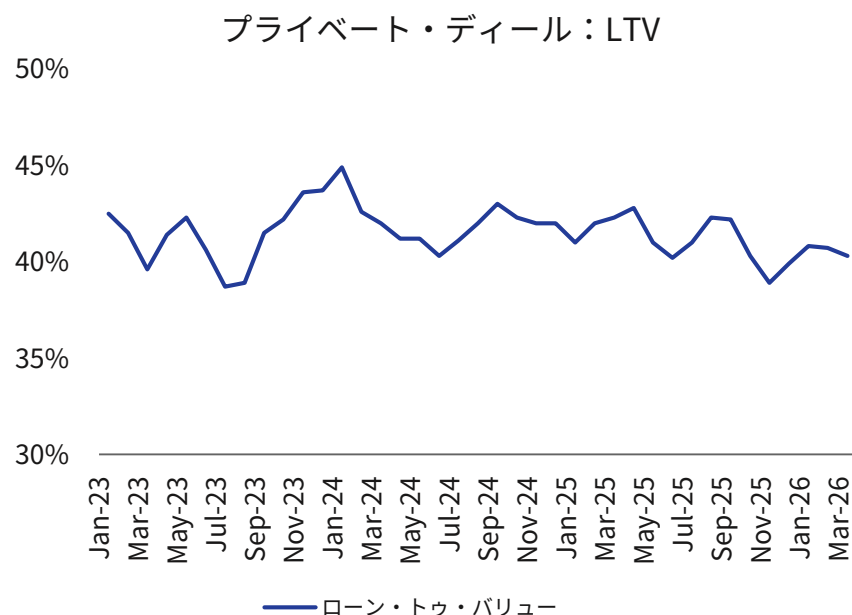


- 2026年第1四半期のLBO買収価格倍率は平均11.6倍となり、2024年第3四半期以来の高い水準であった2025年第4四半期の12.9倍から低下しました。最近の相場変動、特にソフトウェア関連銘柄を巡る変動を背景に買い手と売り手のミスマッチが拡大し、2026年第1四半期のLBO取引件数は2025年第4四半期に比べて39%減少しました。

出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。ファンドの運用期間を通じて市場動向が継続することを保証するものではありません。

2026年第1四半期、LTVは40%に低下

LTV（ローン・トゥ・バリュー）は、1月および2月の平均41%から、3月は40%に低下しました。

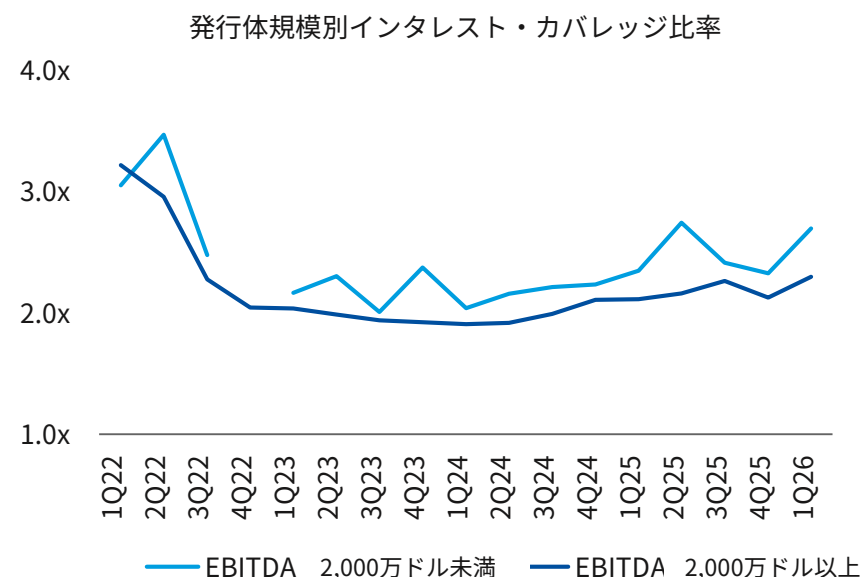
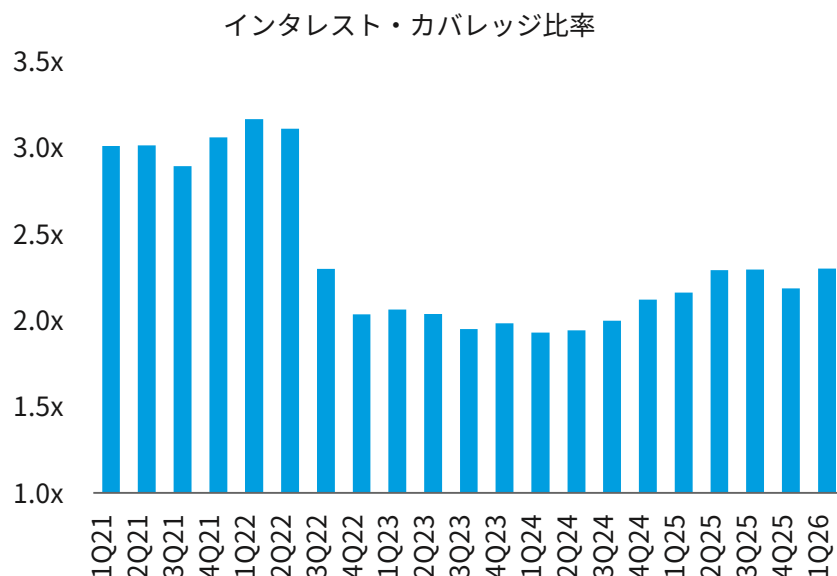


- **ローワー・ミドル・マーケット（EBITDA 2,000万ドル未満）**：LTVは、6ヶ月ぶりの高水準となった2月の40%から、3月は39%に低下しました。
- **コアおよびアッパー・ミドル・マーケット（EBITDA 2,000万ドル以上）**：3月の平均 LTV は 41% で横ばいとなりました。

出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。市場動向がファンドの存続期間を通じて持続する保証はありません。

LMMのインタレスト・カバレッジ比率

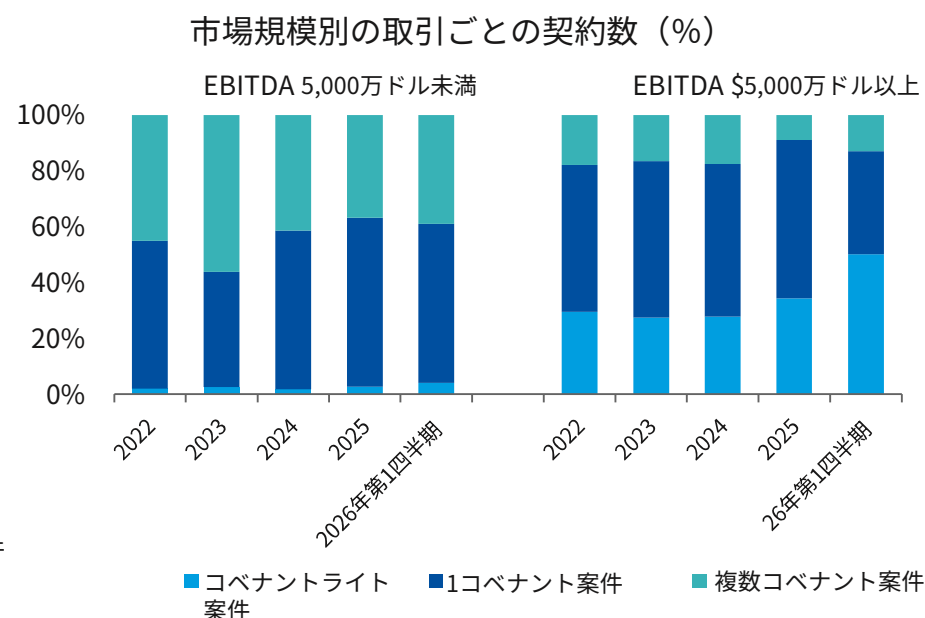
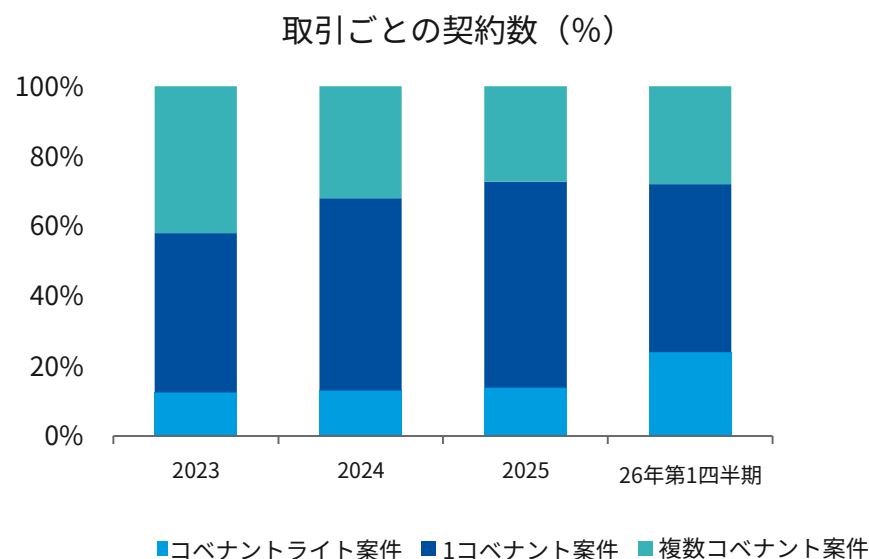
2026年第1四半期に新規発行された米国ダイレクト・レンディング・ローンのインタレスト・カバレッジ比率は平均2.3倍となり、2025年第4四半期の2.2倍から上昇、2025年第2四半期および第3四半期の水準に回帰しました。



- ローワー・ミドル・マーケット（EBITDA 2,000万ドル未満）**：2026年第1四半期のインタレスト・カバレッジ比率は2.7倍に上昇し、2025年第2四半期以来の水準となりました。
- コアおよびアッパー・ミドル・マーケット（EBITDA 2,000万ドル以上）**：インタレスト・カバレッジ比率は、2025年第4四半期に平均で2.1倍まで縮小した後、2026年第1四半期には2.3倍に上昇、2025年第3四半期の水準に並びました。

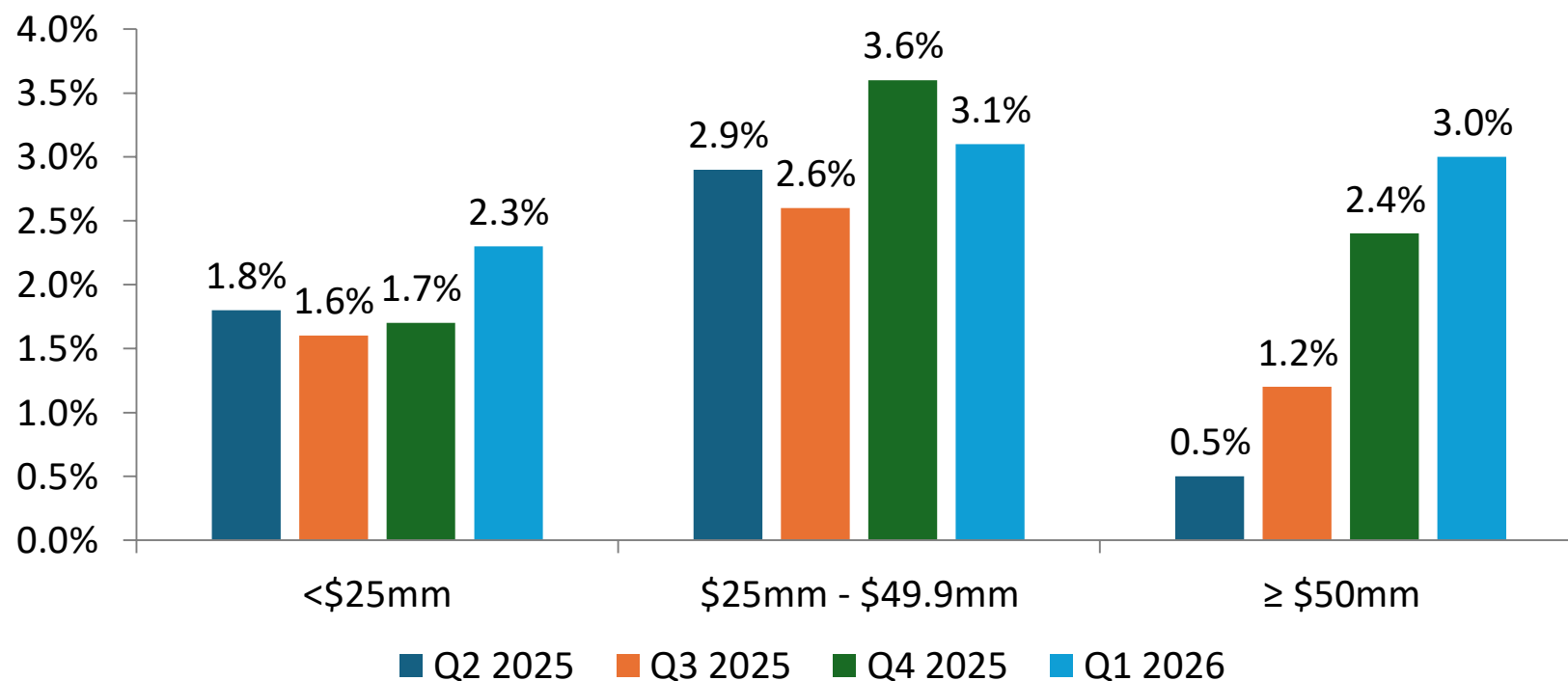
出典：KBRA DLD Research Insight & Outlook、2026年4月。市場動向がファンドの存続期間を通じて持続する保証はありません。

LMMのローンのコベナント状況に変更なし



- 2026年第1四半期、米国のダイレクト・レンディング市場全体における取引のうち、コベナントライト取引が占める割合は24%となり、2025年の平均である14%から上昇しました。一方、1コベナント案件の割合は59%から48%に低下しました。
- EBITDAが5,000万ドル未満の発行体において、2026年第1四半期の融資取引のうち4%がコベナントライト案件であり、2025年の3%からわずかに上昇しました。2つ以上のコベナントを伴う案件の割合も増加し、2025年の37%から2026年第1四半期には39%となった一方、1コベナントのみの案件の割合は、2025年の61%から2026年第1四半期には57%に減少しました。
- EBITDAが5,000万ドル以上の発行体に対する融資では、2026年第1四半期の半数がコベナントライト案件であり、2025年の34%から増加しました。1コベナント案件の割合は、2025年の57%から2026年第1四半期には37%に低下しました。このEBITDA区分内では、1億ドル以上のEBITDAを有する発行体がコベナントライト条件の大部分を占めており、これらはプライベート市場と公募市場を相互に活用できるほどに十分な規模を有しています。これに対し、広範なシンジケートローンの市場では、約90%がコベナントライトとなっています。

EBITDA別デフォルト率の推移



- ダイレクト・レンディング市場全体のデフォルト件数はがわずかに増加しているものの、ローワー・ミドル・マーケット(LMM)は、よりEBITDAの大きいグループと比べて低いデフォルト率を維持している。これは、多くのLMM取引に共通する、低いレバレッジ水準、より強固な契約条項、およびスポンサーによる手厚い自己資本支援を反映していると考えられます。

出典：Proskauder Private Credit Default Index、2026年3月。ファンドの運用期間を通じて市場動向が継続することを保証するものではありません。

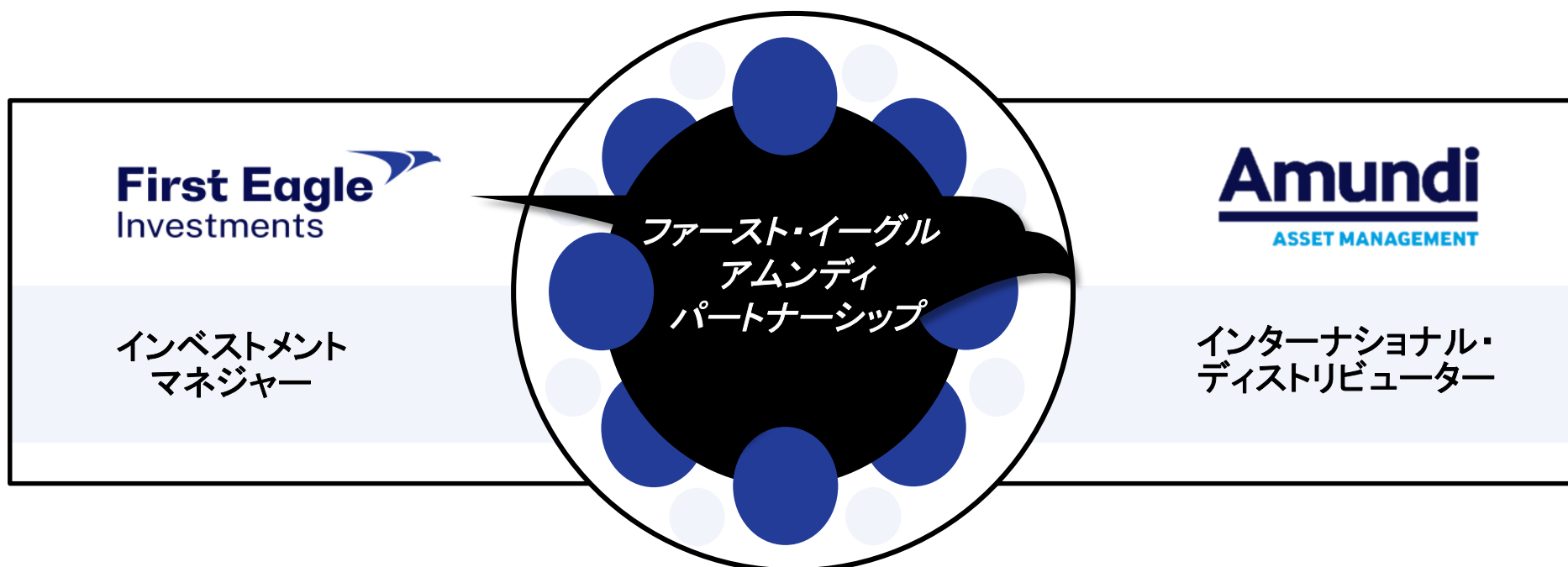
ファースト・イーグル社が運用する 米国ダイレクト・レンディング戦略

ファースト・イーグル社のダイレクト・レンディング戦略の特徴・強み

- ✓ 米国のスポンサー付きシニア担保第一抵当ローン
- ✓ 米国ローワー・ミドルマーケットの企業（EBITDA5～25百万ドル）を対象としたローン
- ✓ アセット・ベース・レンディング(“ABL”)の組み入れ
- ✓ 業種別に特化したオリジネーション（ソーシング）
- ✓ サイクルを経験したシニアメンバーの豊富な運用経験
- ✓ 2010年代前半から順調に築き上げてきたトラックレコード
- ✓ 保守的な運用によるダウンサイド・リスクの低減、低位に抑えられたデフォルト率

上記は情報提供のみを目的としたものであり、ファンドへの投資の勧誘を目的としたものではありません。

ファースト・イーグルとアムンディの強固なリレーションシップ



25+

年にわたる戦略的
パートナーシップ

4

戦略の提案が可能

13.1

10億米ドルの
運用資産残高

40+

カ国にわたる投資家層

2026年3月末現在.

ファースト・イーグル社のダイレクト・レンディング戦略の概要

ダイレクト・レンディング戦略

- 旧THL Creditが2010年代前半より運用、2020年にファースト・イーグル社が買収
- 運用資産総額: 53億ドル¹
- オープンエンド、クローズドエンド、SMAなど、多様な投資ストラクチャーを提供

キャッシュ・フロー・レンディング	アセット・ベース・レンディング (“ABL”)
• EBITDAが500万～2,500万ドルのシニア担保第一抵当ローンに注力 • 典型的なスプレッドはS+500～S+700 • スポンサー付案件 • レバレッジ水準: 3.0～4.5倍 • 堅固な財務条項パッケージを備えたコントロール重視の案件構造	• 市場の混乱や企業・業界内の変革を好機と捉え、魅力的なりターンを提供することを目指す • 利回りレンジ: S+600～S+900 • 融資期間: 18～24か月 • 担保および流動性に重点を置き、具体的には売掛金、在庫、知的財産、機械・設備などを対象とする

出典：First Eagle Alternative Credit、特記のない限り2026年3月末時点。将来の運用資産残高（AUM）、プラットフォーム規模、利回り、ポートフォリオ構成、またはパフォーマンスを保証するものではありません。利回り範囲は運用実績を示すものではありません。ポートフォリオの特性、投資構造およびプロセスに関する説明は、あくまで参考情報です。本資料に記載されたFEACのポートフォリオ構成および／またはプロセスが、いかなるポートフォリオまたは投資ビークルの存続期間を通じて継続する保証はなく、かかるプロセスおよび運用は、大幅に変更される可能性があります。

1. 記載されている金額は、投資資本の公正価値を反映したものであり、これには、FE社が助言サービスを提供する投資ビークル、パートナーシップ、および個別運用口座について、関連する未実行の遅延引出コミットメントおよび／または未実行のリボルビング・クレジット・ファシリティ、ならびに未払いのコミットメント済み投資家資本が含まれます。FE社が運用する特定の投資ビークルは、コミットされた投資家資本を超える投資目的の借入を行うことを可能にする信用枠を締結することができます。当該信用枠のコミット額は、実行済みか未実行かを問わず、FE社の運用資産に含まれる場合があります。これらの目的におけるFEACのAUMの算定方法は、他の投資運用会社が採用する計算方法とは異なる場合があります、その結果、他の投資運用会社が提示する同様の指標と直接比較できない可能性があります。

ファースト・イーグル社の米国ダイレクト・レンディング戦略 “ローワー・ミドル・マーケット”の相対的強み

ローワー・ミドル・マーケットの企業（EBITDA5～25百万ドル）は、融資条件交渉を優位に進めることよりも確実に資金調達先を確保することを重視する傾向があります。そのため、競争の加速が進むアッパー・ミドル・マーケット以上の市場と比べて、ローワー・ミドル・マーケットは相対的に非効率性が保たれ、リターン水準の確保が期待できます。

ローワー・ミドル・マーケット

- ✓ スポンサー（中小PE会社）にとって、価格だけでなくディール成約の確実性が重要な優先事項
- ✓ 経営陣と情報へのフルアクセス
- ✓ 高い利回り
- ✓ 厳格なコベナンツ（財務制限条項）
- ✓ 高い回収率
- ✓ 頻度の高い財務情報報告
- ✓ 取締役会へのオブザーバー参加

アッパー・ミドル・マーケット

- ✗ スポンサー（大手PE会社）にとって、高いレバレッジと低い借入金利が優先事項
- ✗ 経営陣へのアクセスが限定的
- ✗ 低い利回り
- ✗ 緩和されたコベナンツ（コブライト）または財務制限条項なし
- ✗ 低い回収率
- ✗ 財務情報報告の頻度が相対的に低い

出典：FEAC

上記の例示を目的としたものであり、これに依拠することはできません。

ターゲットを絞り込んだ、セクター主導型のソーシングモデル

ローワー・ミドルマーケットおよび特定セクターへの注力が、PEスポンサーとのより深いリレーションシップ構築とソーシングの強化につながる

1 高度にターゲットを絞ったローワー・ミドルマーケット投資機会

ローワー・ミドル・マーケット分野における深い専門性を活かし、案件発掘、ストラクチャリング、審査においてプラットフォーム上の優位性を確立

2 特定セクターにフォーカスした専門性

当社の経験と知見が審査上の優位性をもたらすセクターに投資対象を絞り込む

3 対象スポンサーのカバレッジ

対象戦略、ファンド規模、およびセクターが、当社が注力するローワー・ミドルマーケットおよび業種と合致するスポンサーを優先

案件発掘におけるスイートスポット

確信を持って案件の組成、デューデリジェンス、引受審査を行える、質の高いリードポジション案件

セクター別の厳選されたスポンサーとの関係

金融サービス



テクノロジー



ヘルスケア



ビジネスサービス

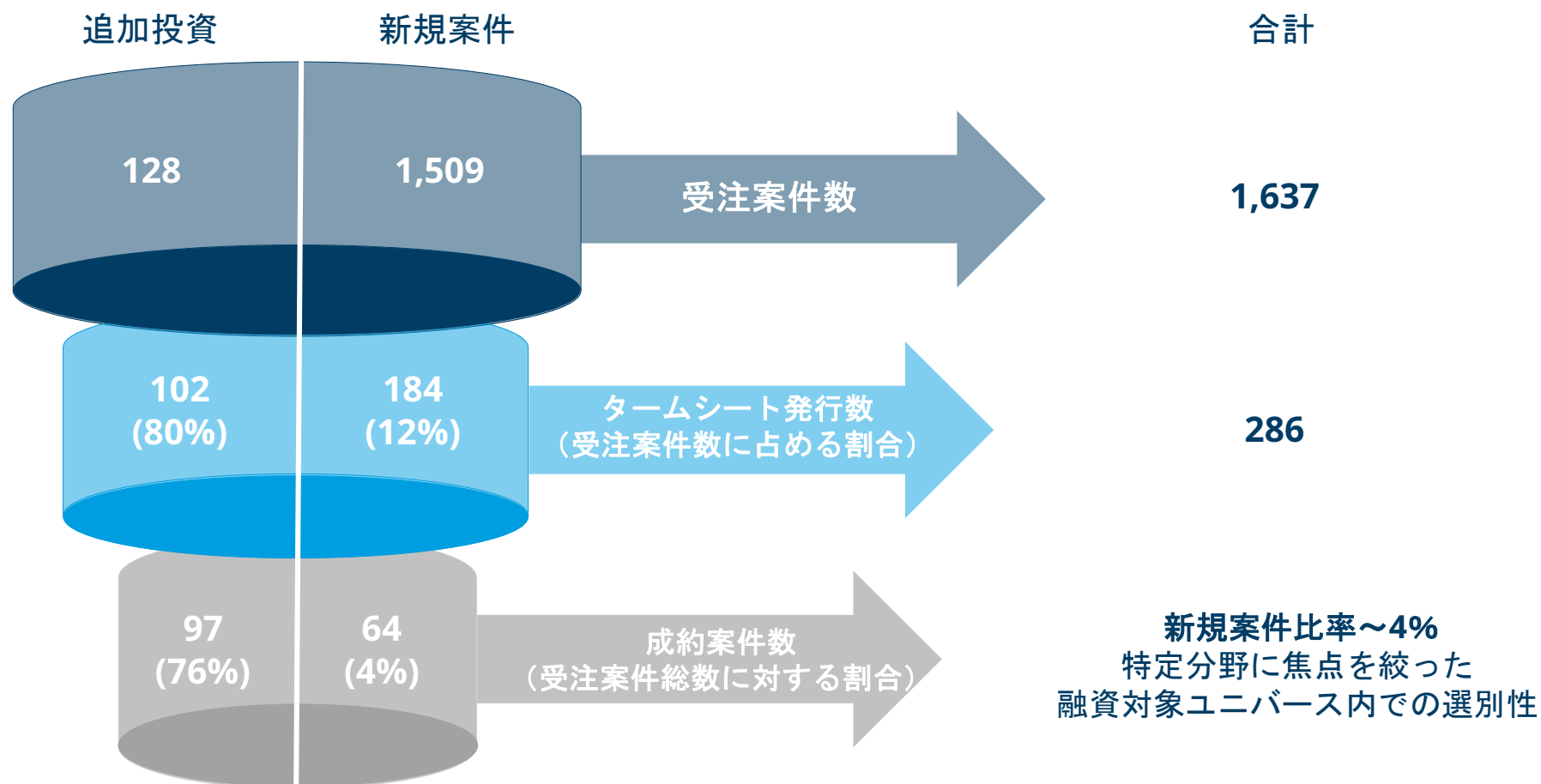


出典：ファースト・イーグル、2026年3月末時点。投資案件はそれぞれ異なるため、上記の投資プロセスで概説されたすべてのステップが各投資案件において実施されること、または指定された順序で実施されることを保証するものではありません。あくまで説明のための例示です。ファースト・イーグルが、上記の資産クラス内で投資機会を特定、発掘、取得できることを保証するものではありません。

フォーカスされたオリジネーションと厳選された投資実行

ターゲットを絞った案件開拓と、厳格な審査および選択的な投資の組み合わせ

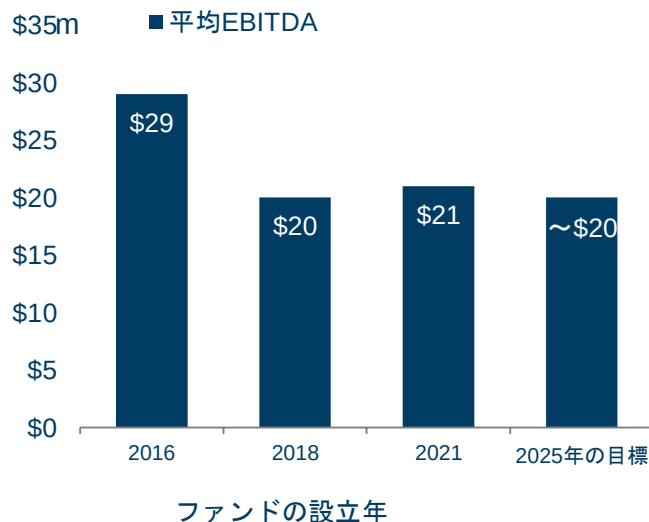
2023年～2026年年初来の案件フロー



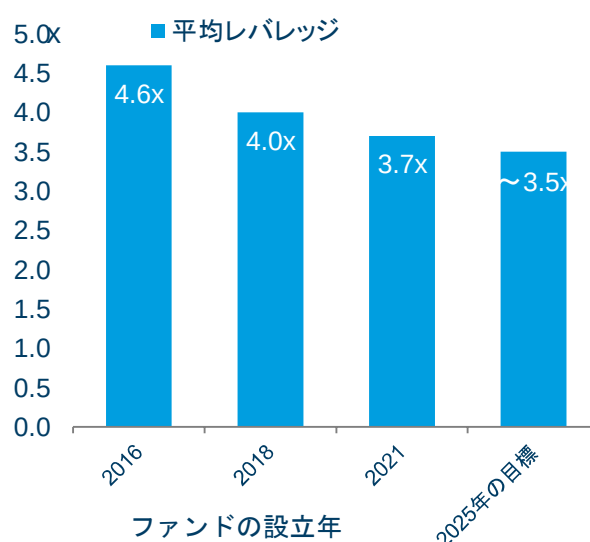
出典：ファースト・イーグル・オルタナティブ・クレジット、2026年3月末時点。「成約件数」には、ダイレクト・レンディング・プラットフォームを通じて締結されたすべての新規キャッシュフロー案件、追加案件、および発行・受諾されたコミットメントが含まれます。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。実際の結果は異なる場合があります。

一貫した投資方針、構造的な管理、および保守的な引受基準

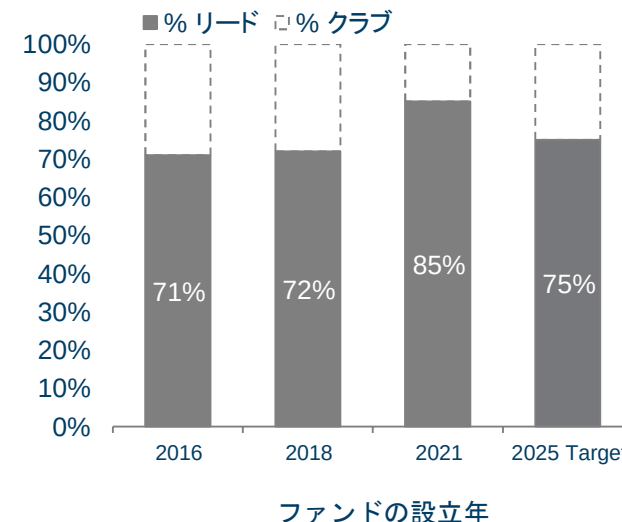
一貫したロウアー・ミドルマーケットへの注力



景気サイクルを問わず保守的な審査基準



確信度が高く、管理志向の融資



このアプローチがもたらした成果

80億ドル以上
の投資を実行
2020年以降

0.3%
年平均
損失率

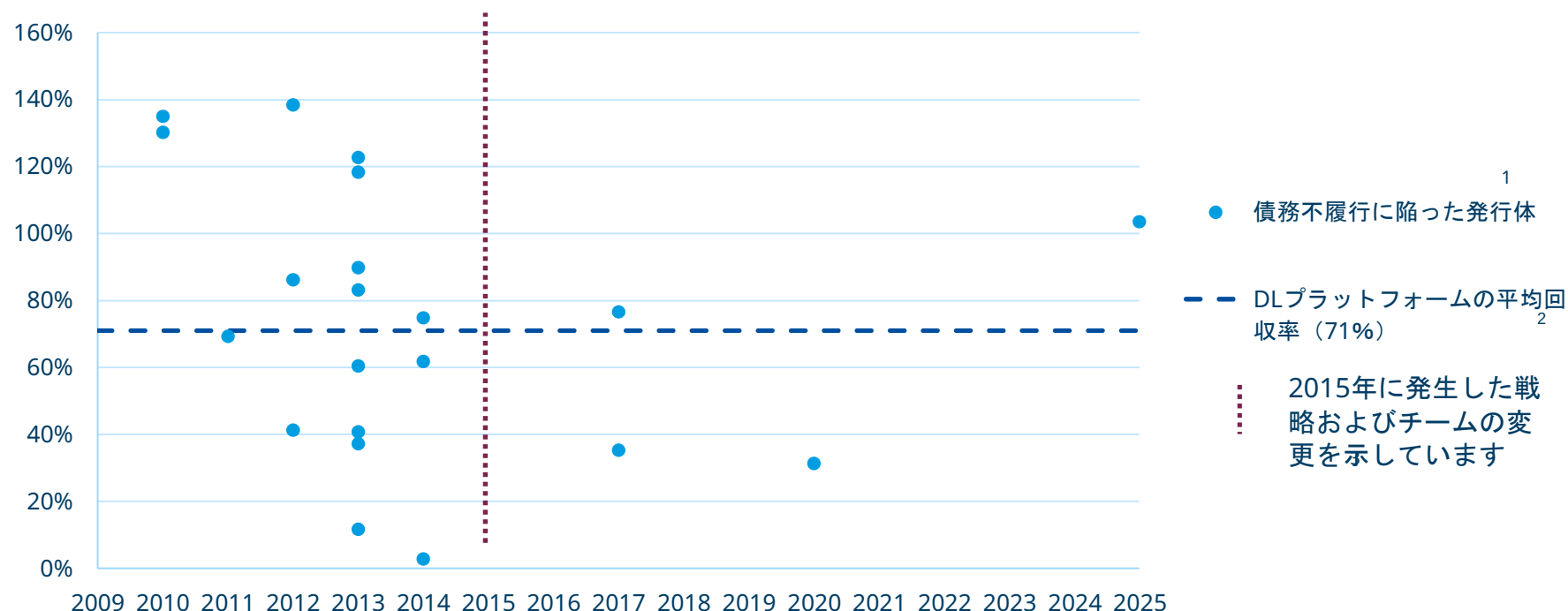
90%以上
の実現済投資が
≥ 8%グロスIRR

出典：FEAC、ウォールストリート・オフィス、エベレスト。データは2026年3月末時点のもの。ファンドIII、ファンドIV、およびファンドVは再投資期間を終了している。ファンドIおよびIIは、スポンサー不在の企業に対する高利回りのメザニン債への投資という投資戦略が、主にスポンサー付きポートフォリオ企業の第1順位担保付債務に焦点を当てた現在のダイレクト・レンディング戦略とは大きく異なるため、本表からは除外されている。ポートフォリオの構成、FEACの役割、および財務データはクローリング日時点のものであり、実現済みおよび未実現の投資の最大取引公正市場価値で加重平均されています。EBITDAは取引クローリング時点の企業財務状況を反映しており、オリジネーション時の審査指標に基づいています。上記の算出は、キャッシュフローに基づく審査指標を反映することを目的としているため、資産担保ローン、年間経常収益（ARR）ローン、スペシャル・エクイティ、および広範なシンジケートローンを含め、主にEBITDAに基づいて審査されていない投資は除外されています。広範なシンジケートローンは、2018年および2021年ヴィンテージにおいて、COVID-19パンデミック期間中に機会を捉えて活用されたものであり、ヴィンテージを横断したポートフォリオの審査プロファイルを代表するものではありません。資産担保ローンは、キャッシュフローではなく主に担保価値に基づいて審査されるため、EBITDAベースの平均値を歪める可能性があります。将来のパフォーマンスやポートフォリオの構成を保証するものではありません。FEACの投資目的が達成されること、またはFEACの投資戦略が成功することを保証するものではありません。

ダイレクトレンディング・プラットフォームの回収率

2015年以降に組成されたローンの年平均デフォルト率は0.55%¹

発行体のデフォルト回収率¹（組成年別）



ダイレクト・レンディング戦略のデフォルト率データは、あくまで参考情報として掲載されています。個々のファンドおよび口座は個別に運用されており、そのデフォルト率、回収率、損失率は、本資料に記載されている数値と実質的に異なる場合があります。

特に記載がない限り、情報は2025年12月末時点のものです。

過去の運用実績は将来の結果を保証するものではありません。ポートフォリオや投資の存続期間を通じて、過去の傾向が継続する保証はありません。

1.) 2026年3月31日現在。MM CLOにのみ保有されていた7社のデフォルト発行体を除外しており、これらの平均年間支払デフォルト率は0.62%でした。； 2.) 額面に対する回収率の割合を示しています。回収率の分析には、購入日から出口日までに得られたすべての比例配分収益に加え、出口日時点のコストおよび未回収債権が含まれます。本データは、FEACが運用するダイレクト・レンディング・プラットフォームにおいて、2010年4月から2025年9月30日までに発生したキャッシュフロー取引を反映したものです。記載されている情報は、ファースト・イーグル・オルタナティブ・クレジットが発行したポートフォリオおよびミドルマーケットCLOのみに関連するものであり、ファースト・イーグル・プライベート・クレジットLLCまたはその前身企業が発行したポートフォリオや投資車両は反映されていません。一部の回収はまだ完了していません。これらの回収率および出口日は推定値であり、変更される可能性があります。回収率は、投資の推定未実現価値の全部または一部に基づいています。実際の回収率は、ここに示された率と大幅に異なる場合があります。； 3.) 2015年、ダイレクト・レンディング・プラットフォームは、主にファースト・リエン（第一順位担保債権）かつスポンサー付き戦略へと移行しました。2015年以前は、ダイレクト・レンディング・プラットフォームは、スポンサーのない企業に対するジュニア・デット戦略に重点を置いていました。DLプラットフォームには、FEACの各種プライベートファンド、事業開発会社、およびSMA／ファンド・オブ・ワンに保有されるすべてのダイレクト・レンディング投資が含まれます。MM CLOにのみ保有され、平均回収率が66%であった7社のデフォルト発行体は除外されています。

アセット・ベース・レンディング (“ABL”) でダイレクト・レンディングを補完

市場混乱期や企業・業界の転換期において、アセット・ベース・レンディングで魅力あるリターンの創出を目指します。

期待されるアセット・ベース・レンディングの利点

- ・ 手数料獲得の機会
- ・ ダウンサイドに備えたストラクチャリング
- ・ 担保資産の処分価値に着目した審査

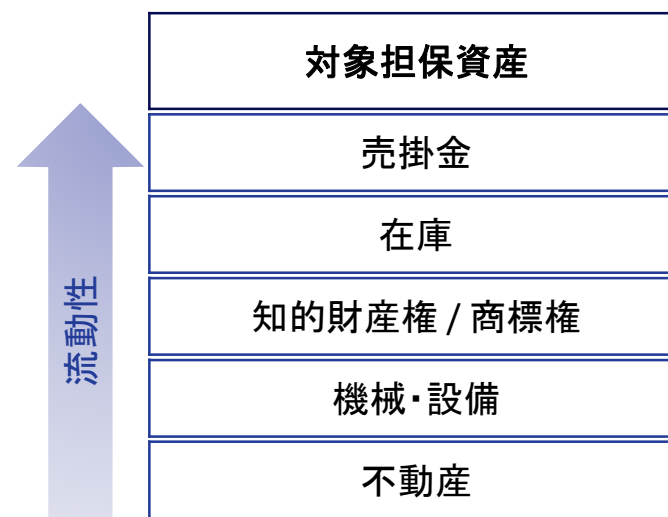
景気サイクルを通じて魅力ある投資機会となる可能性

- ・ 担保資産は景気後退期にも価値が期待できるもの
- ・ 担保価値と換金性重視

典型的ストラクチャー:

- ・ 利回りレンジ S+600-900bps
- ・ 貸出期間は平均4年で、通常1年半から2年後に期限前弁済
- ・ コール・プロテクションと高水準の手数料獲得機会

- ✓ アセット・ベース・レンディングは、一般のキャッシュフロー・ベース・レンディングと比べて利回りが高く、より良い手数料獲得機会になり得ます。



上記の情報はアセット・ベース・レンディング市場における弊社の経験や分析結果に基づくものです。弊社としてはこうした経験・結果は合理的と考えますが、元来これらは主観的なものです。如何なるポートフォリオや投資ビークルの存続期間を通じて、こうした経験や結果が正しいとの保証はありません。

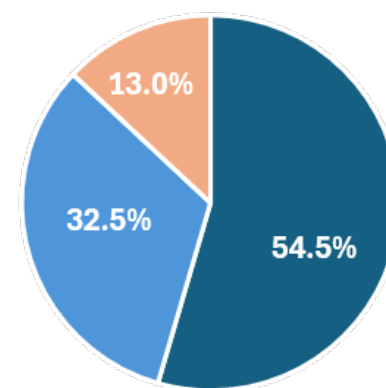
上記は投資一任契約を通じて投資する運用戦略についてであり、投資は保証されたものではなく、資金の損失リスクや流動性リスクがあります。

First Eagle Private Credit Fund（オープンエンド・ファンド） の2026年5月末ポートフォリオ

各種指標

556百万ドル	101	5.41%
総資産額	銘柄数	平均スプレッド
25.3百万ドル	37.9 %	11.2%
平均EBITDA	平均LTV	ABL

ローン別内訳 (%)



■ Direct Lending ■ Club Loans ■ Syndicated Loans

出典: First Eagle Alternative Credit. 2026年3月31日現在。

フィーダーファンド(First Eagle Amundi Private Credit Fund) の月次騰落率推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通年
2024									0.68%	1.02%	1.19%	-0.82%	2.07%
2025	0.01%	2.03%	0.59%	1.09%	0.92%	1.52%	0.53%	0.75%	0.92%	0.25%	0.35%	0.74%	9.74%
2026	1.23%	2.05%											3.27%
												累積リターン	16.13%
												年率リターン	10.48%

上記の金融商品の過去の実績は、あくまでも投資一任業務における運用のご参考として表示したものであり、特定の金融商品の勧誘を目的としたものではありません。上記は、当該金融商品の過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。

上記は投資一任契約を通じて投資する運用戦略についてであり、投資は保証されたものではなく、資金の損失リスクや流動性リスクがあります。

ファースト・イーグル社の米国ダイレクト・レンディング戦略へのアクセス

- ✓ ファースト・イーグル社は、米国ダイレクト・レンディング戦略を運用するファンドとして、オープンエンドの米国籍非上場BDC¹、そしてクローズドエンドの米国籍L P Sのファンドを設定しました。
- ✓ アムンディは、米国以外の投資家様にファースト・イーグル社の米国ダイレクト・レンディング戦略をご提供することを目的として、
 - オープンエンドの米国籍非上場BDC¹に投資するルクセンブルグ籍フィードーファンド（First Eagle Amundi Private Credit Fund）をご用意しております（2024年11月設定）。
 - クローズドエンドのケイマン籍ファンドの設定も予定しておます。

<FEACの米国籍ダイレクト・レンディング戦略ファンド>

	オープンエンド	クローズドエンド
ファンド名	First Eagle Private Credit Fund	First Eagle Direct Lending Fund VI
ファンド形態	BDC（非上場）	L P S
設定	2023年6月 (2024年4月よりオープンエンド)	2025年5月 ファーストクローズ
募集期間	オープンエンド	目標2026年末 ファイナルクローズ
購入：	月次	キャピタルコール方式
解約：	四半期	不可

1.非上場BDCとは、プライベート・ビジネス・デベロップメント・カンパニーを指します。

上記は情報提供のみを目的としたものであり、ファンドへの投資の勧誘を目的としたものではありません。

上記は投資一任契約を通じて投資する運用戦略についてであり、投資は保証されたものではなく、資金の損失リスクや流動性リスクがあります。

下記ファンドおよび当社との関係についての留意事項

1. ファンド： First Eagle Direct Lending VI-C (Feeder), ELP
First Eagle Direct Lending VI-C (Blocked), ELP

外国籍の集団投資スキームで、日本法における外国投資信託・外国投資証券ではありません。

2. ファンドの投資助言会社： First Eagle Alternative Credit, LLC

同社は、当社の外国関係法人ではありません。（同社が属するFirst Eagleグループは、当社が属するアムンディ・グループと、戦略的パートナーシップの関係にありますが、資本関係はありません。）

3. ファンドの投資助言会社と当社（アムンディ・ジャパン株式会社）の関係

両者は、紹介・販売契約（Introducing and Placement Agreement）を締結しており、ファンドに係るお客様へのご紹介は当該契約に基づき行われています。

お客様が、ファンドに投資した場合、またはファンドを組み入れる投資一任契約を締結した場合、当社は、当該契約に基づき、お客様が支払うファンドに係る基本運用手数料の一部※を受領します。（※最初の3年間は30%、それ以降は15%）

これによるお客様のご負担への影響はありません。

4. 当社の利益相反管理方針の概要については当社ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.amundi.co.jp/company/policy/coi>

免責事項

本資料は、弊社で提供を検討しております運用戦略の基本的性格、仕組みを機関投資家などのご担当部署にご紹介することを目的としてアムンディ・ジャパン株式会社が作成したものです。ご提案する運用戦略の詳細は未定ですのでご注意ください。

本資料に記載されている運用内容および諸条件（運用ガイドラインを含む）は、今後変更されることがあります。

本資料でご紹介するプロダクトは、特定のお客様の特定の投資目的および財務状況または要望を考慮して作成されたものではありません。したがって当該プロダクトのご検討に際しては、お客様ご自身の投資目的および財務状況に照らして、当該プロダクトのリスクおよび妥当性を十分にご考慮ください。

本資料の中で記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

本資料中のいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務（直接的、間接的を問わず）を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

投資一任契約のお申込みにあたっては、契約締結前交付書面をお渡しいたしますので、必ず内容をお読みください。

外国投資信託に係る記述がある場合、ご紹介する運用戦略の仕組みに関する説明を目的としたものであり、当該外国投資信託の勧誘、媒介を意図したものではありません。

ご留意事項

本資料は、新規商品案をご検討頂くための情報提供を目的として、First Eagle Alternative Credit社が作成した資料をもとに、アムンディ・ジャパン株式会社が作成した資料であり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。また、資料に記載された金融商品・サービスの提供をお約束するものでもありません。

本資料は、各種の信頼できると考えられる情報をもとに作成されていますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。

本資料の中で記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

当社が投資一任契約に係る業務を行う際には、お客様にはご契約の資産額に対し、投資顧問料をご負担頂きますが、現時点においては未定であるため、記載できません。その他、組入資産の売買手数料、保管費用等（以下「手数料等」といいます。）を、運用財産を通じて間接的にご負担頂きます。また、投資一任契約に基づき投資信託または外国籍リミテッド・パートナーシップ等（以下、これらを総称して「投資信託等」といいます。）に投資する場合は、投資信託等に係る運用報酬・管理報酬等（監査費用を含みます。以下「諸費用等」といいます。）を間接的にご負担頂きます。これらの手数料等および諸費用等は、契約内容、契約資産の額、運用状況により異なるため、具体的な金額を表示することができません。また、お客様に直接および間接的にご負担いただく投資顧問料、手数料等および諸費用等の合計額についても、契約内容、契約資産の額、運用状況により異なるため、具体的な金額を表示することができません。

有価証券等への投資に関する主なリスクについて:

投資一任契約に基づく有価証券の投資には、株式投資のリスク（価格変動リスク・信用リスク・流動性リスク）、債券投資のリスク（価格変動リスク・信用リスク・流動性リスク）、為替リスク、カントリー・リスク、デリバティブ取引のリスク、インフラストラクチャー/プライベート・エクイティ投資、不動産関連投資に関わるリスク等があります。したがって、投資元本が保証されているものではなく、当該有価証券等の値動きにより損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第350号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

日本証券業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会